

NPO法人民間稲作研究所

- (1) 有機稲作における水田雑草の抑制技術
- (2) メタンの発生を抑制する有機稲作技術
- (3) イネカメムシの被害を抑制する有機稲作技術
- (4) 有機稲作の技術指導の課題
- (5) 有機農業推進に向けた課題

NPO法人民間稲作研究所

理事長

有機稲作農家 舘野廣幸

◆有機稲作による水田雑草の抑制技術◆

- ①秋耕による稲わら分解は微生物が行う
- ②深水(5cm)代かきによって腐食性有機物が、
表層のトロトロ層になる
- ③複数回代かきは7~10日間隔を空けて行い、
代かきによって水中の酸素量が増えて
微生物活性を高める
- ④表層のトロトロ層と水田内の酸化的環境は、
雑草の発芽を抑制する
- ⑤成苗の田植えは草丈や根量で雑草に優位
- ⑥田畑転換や輪作で水田雑草が減少する

◆メタンの発生を抑制する有機稲作技術◆

- ① 秋耕による稲わらの分解促進(微生物の活性化)
- ② 成苗育苗による根量の増加と健全化(酸素の供給根)
- ③ 深水代かきによる透水性の確保(水田の層状構造)
- ④ 複数回代かきによる有機物の酸化的分解
- ⑤ 田畑転換による土壤微生物層の転換
- ⑥ 水田除草機などによる複数回除草
- ⑦ ウキクサや植物性プランクトンによる酸素供給
- ⑧ 水田の土壤動物(イトミミズなど)による攪拌効果
- ⑨ 鉄イオンの還元による酸化的土壤環境の維持
- ⑩ 適度な水管理(間断灌水や中干し)

◆これらは、有機稲作の雑草抑制技術と共通である◆

◆有機稲作のカメムシ対策◆

- ◆越冬成虫を減らすための秋耕（稲株越冬を減らす）
- ◆春の成虫の食草（イネ科）の実を減らす草刈り
- ◆産卵寄生バチ（タマゴバチ）を増やす
- ◆出穂期を早めてイネカメムシの第二世代を避ける
- ◆地域の圃場と同時期の出穂でカメムシの集中を避ける
- ◆イネカメムシの天敵（アブ類、クモ類、カエル、トンボ、鳥類など）を増やす。
- ◆農薬による防除は天敵が減少、逆効果となる

◆ イネカメムシを捕食するムシヒキアブ ◆

イネカメムシ(資料)



ムシヒキアブの捕食
(舘野かえる農場)



◆害虫からの警告◆

（自然界には害虫という虫はいない）

★特定の害虫の大量発生は環境の悪化指標である

（イネカメムシは、温暖化で生息拡大か！）

★環境悪化の原因は人間社会の意識と行動である

★環境悪化の最大の被害者は農民や漁民である

★農業の衰退は、食料だけでなく

自然・生物・社会・文化の崩壊である

◆ 有機稲作技術指導の課題 ◆

(1) 慣行栽培者への技術指導の課題

- 慣行農法からの有機農法への作業体系の変換
- 慣行栽培向け稚苗育苗から成苗育苗への転換
- 深水による複数回代かきを実施する水利環境の問題
- 水田での有機質肥料の肥効の解明

(2) 新規就農者への技術指導の課題

- 水稻栽培の基本技術の理解不足
- 水田を借地する権利の取得および水利権の獲得
- 水稻の機械設備(育苗・田植・稲刈・乾燥・調整)を持っていない
- 水田の毎日の水利管理の必要性(住居と水田に距離など)

◆ 有機農業の推進に向けた課題 ◆

- ① 学校等の教育機関での有機農業科目の設置
(大学での有機農業研究・農業高校等の農業科目)
- ② 農業大学校等での新規就農者向け基礎技術の講習講座
(水稻・野菜等の栽培・機械作業の等の講習)
- ③ 地域の有機農業拠点づくり＝「**有機農業センター**」
(オーガニック宣言地区に有機農業専用機械設備の共同施設)
- ④ **水田の水利設備**の有機稲作に合わせた稼働の推進
(揚水時期、中干し時期、水利期間、水路等の改善)
- ⑤ **JA等**の農業組合組織の有機農業への取り組み促進
地域農業の中核組織への有機農業部門の設置
- ⑥ 有機農業認証制度の多様化
地域内の簡易な認定実施と有機JAS認定への移行